



◆ 野外オペ「テーレン」その⑤

12日。6:30 起床。CHヘリの故障と定期検査のため、CH1機態勢になるのに伴い、今まで順調に来た野外オペも日程変更が生じました。このオペは、次にスカルプスネスに移動して継続する予定でしたが、一日前倒し、しかも基地へ帰還となりました。ですので、実質テーレンの調査は、今日が最終日。午前中は、川又隊員の岩石採取に4人で取り組みました。今回は、モレーン上にある迷子石が対象。私たちがねを自在に操り、石と対話しながら、美しく剥ぎ取れるまでに。キャンプサイトに戻り、インスタントラーメンの昼食。午後は、対空標識の回収などを行いました。



モレーンの迷子石で試料採取

その後、土井・川又隊員はテーレン北西域の調査に向き、白水隊員と私は夕食の準備に当たりました。最後の夕食ですから、豪華に刺身と焼肉。大丈夫か？刺身・・・とは決して口に出せません。美味しくいただきました。

ところが、夕食後の定時交信。明日は天候不良が予想され、ヘリの離発着が困難な見込みのため、帰還が一日延期との連絡。自然が相手ですから、思い通りにはいきません。入浴も一日先延ばしです。



インスタントラーメン完成！

◆ JARE57 隊員紹介

渡邊 創 (33) 越冬隊 通信担当 青森県出身
総務省 関東総合通信局

青森県立八戸高校から東北大学理学部物理学科へ進学。素粒子物理学を専攻する。その後、北海道大学大学院情報科学研究科で脳科学を学ぶ。総務省入省初日、メール整理中に「南極の氷、差し上げます」という文面を見つけた。しかも、差出人が偶然にも同省勤務の高校時代の同級生であった。以来、総務省からも南極に派遣されていることを知り、南極へ興味を持つようになった。ただ、必要条件として「第二種陸上無線技術士」および「航空無線通信士」の資格がいるとのこと。これをクリア



昭和基地の通信室にて

ーしての晴れての派遣である。昭和基地では、無線オペレーターとして、通信室で野外活動チームの安否確認や無線機の保守管理・運営にあたる。皆さんには「**大学に入ってもしっかり勉強することが大切。特に英語はしっかりと(論文を読むために)**」とのアドバイス。南極では、オーロラの撮影をしたい。そのために、40万円以上もの高級カメラを購入。独身のなせる業。けん玉協会南極支部長の肩書もある。

◆ 野外オペ「テーレン」その⑥

13日、停滞日。6:00 起床。一晩中、強風でテントは打ち鳴らされました。羽毛の寝袋に入っているため寒くはないのですが、さすがに風音はどうにもできません。外に出ると通信アンテナは緩み、トイレテントが半壊状態。幸いにもトイレ自体は転倒しておらず事無きを得ました。水が無くなったので、朝食後アイスオペ。鍋やボールを手に近くの氷河で採取し、コンロで融かしました。氷の融解熱は結構大きいのでガス消費も多くなります。ソーラークッカーがあれば・・・と思いながらの作業でした。レトルトのシーフードカレーで昼食を済ませ、午後は疲れている土井隊員に無理を言い、テーレン東側域の見学に行きました。



アイスオペレーション

そして、今夜こそ最後の晩餐とばかりに、一缶数千円？と噂のアワビ缶でアワビ飯、おでん、昨夜の残りの焼肉と、テーレンの6日間を名残惜しみながら頂いたのです。御馳走様でした。ここで一句「**野外オペ水無くなりて氷河融く**」



最後の晩餐



太古の空気が沸々と

果たして、明日は帰れるのでしょうか？